

陸自駐屯地紹介シリーズ 第25回

需品科のメツカ 松戸駐屯地

駐屯地シリーズ編纂委員会

はじめに

陸上自衛隊松戸駐屯地は、松戸市と鎌ヶ谷市の行政区内、新京成電鉄の「元山駅」近傍に所在し、鉄道第2聯隊の演習用鉄道沿いの演習地及び飛行場跡地を戦後譲渡され33万平方米の敷地に7個部隊等が駐屯している。

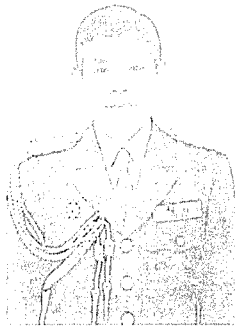
陸上自衛隊の職種「需品科」は、国際平和協力活動や災害派遣で非常に活躍しているが、陸軍にはなかった職種なので、最初に需品科の使命・任務等を説明した後、松戸駐屯地所在部隊等について紹介する。

なお、この内容については「偕行TK友の会」の部隊見学の際に、需品学校の森本教育部長と平瀬広報班長からお聞きしたブリーフィングを主体にまとめさせていただいた。
多大のご支援をいただいた小測校長ほか関係各位に感謝を申し上げます。

1 需品科職種とは
(1) 需品科は、米国陸軍の「QM(Q UARTER MASTER)」の日

本版として戦後スタートし、すべて米国教範の翻訳を準拠として発足した職種である。

需品科職種の自衛官は、「部隊在る」ところ需品あり」を合言葉に、幹部約6百名、曹士約1千9百名が隊務に精励しており、その頂点が「需品学校長」の小測信夫陸将補である。



需品学校長 小測信夫陸将補

(2) 「需品」とは、糧食、燃料、需品器材、給水、落下傘、被服、入浴、洗濯及び生活用品などの品目を対象としており、これらを補給・整備・回収するのが「需品科職種」である。

(3) 需品科の使命・任務は、糧食・需品・燃料・水・部品等の補給、需品の整備及び各種物品の回収、入浴・洗濯

の需品サービス、落下傘による空中投下業務、並びに給食の技術援助である。
(4) 陸軍の輜重兵科と需品科の大きな相違は、輜重兵科では主として輸送を担当していたが、需品科は補給行為の形態として補給品を運搬することはあるが、輸送そのものは担任していない(輸送科が別にある)。

また、需品科では、陸軍の経理部の機能の一部を保有しており、物品の調達要求・取得・配分行為を行い、この過程の中で、補給品を車両に積載して運搬する。しかし、これは補給行為であり、輸送行為とはしていない。

そのほかに、需品科では整備、給水、入浴・洗濯、空中投下業務、給食の技術支援を担当しているが、弾薬は扱わない。弾薬は、各部隊が自力で方面隊の兵站施設において受領するので、師団内兵站部隊に弾薬の輸送・補給部隊は存在しない。

なお、師団内の兵站部隊の相違は、陸軍では輜重兵聯隊のほかに兵器勤務隊(整備を担当)、防疫給水部(工兵部隊が担任)及び衛生隊などがあつたのに対して、自衛隊では後方支援連隊の隷下部隊と

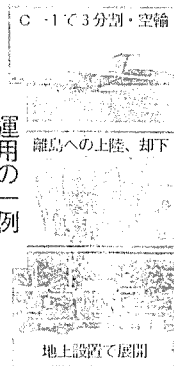
浄水セット、逆浸透型

して整備大隊、補給隊、輸送隊及び衛生隊などがある。

2 需品科の主要装備品

(1) 補給業務用の主要装備品には、冷凍冷蔵庫(最大約3.5トン積載)、燃料タンク車(一般用、6千リットル)、並びに浄水セット(車載型)及び浄水セット(逆浸透型)がある。

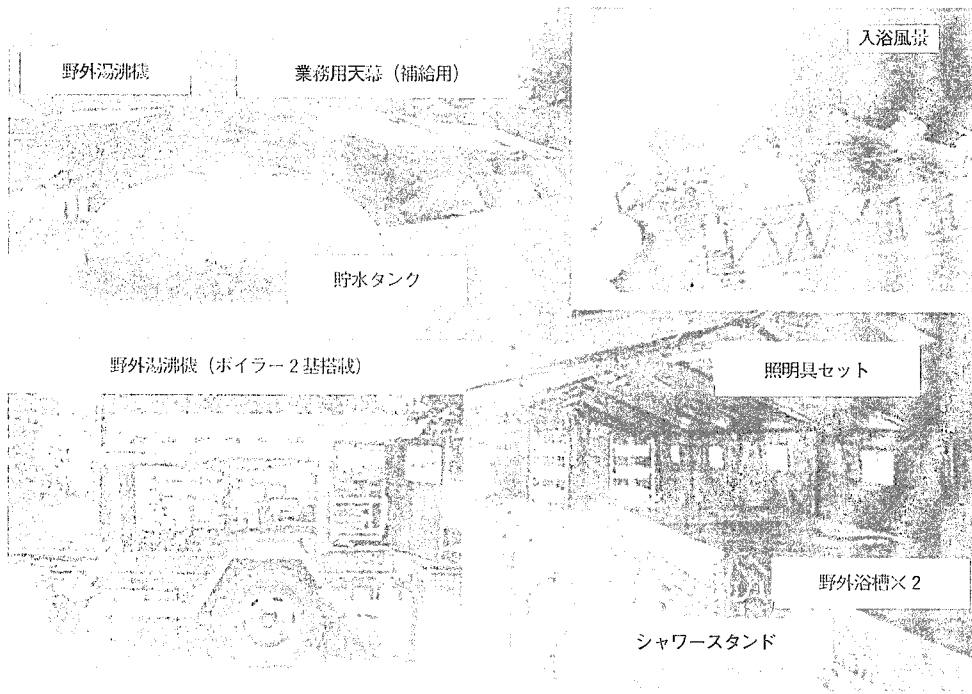
(2) 入浴・洗濯の需品サービス用の主要装備品には、野外入浴セット(毎時約50名入浴可能)及び野外入浴セット



運用の一例

車載式浄水装置で、野外において河川、湖沼等から取水し、原水中に含まれる濁質分、細菌、ウイルス、溶解成分等を除去し、浄水する。

野外入浴セット 2型の構成



2型 (毎時約120名人浴可能)、並びに
 野外洗濯セット (毎時40着可能) 及び
 野外洗濯セット2型 (毎時54着可能)
 がある。
 (3) 空中投下業務用の主要装備品に
 は、車両及び火砲用などの重物料傘が
 ある。

3 松戸駐屯地の歴史

(1) この地域一帯は、江戸時代から放
 牧場 (原野) であり、將軍の鷹狩り・
 鹿狩りが催されていた。大正期には、
 陸軍工兵学校の八柱作業場が置かれ
 た。

(2) 昭和11年、通信省は原野を切り開
 いて飛行場を建設し、通信省中央航空
 機乗員養成所が翌年開設された。

(3) 昭和19年2月から陸軍の航空部隊
 が使用を開始し、第10飛行師団隷下の
 飛行第70戦隊が満洲から転進して夜間
 防空専任のフクロウ部隊として活躍、
 同年9月、同隊が満洲に転進し、飛行
 第53戦隊が所沢から転進、翌年6月、
 同隊が藤ヶ谷に転進し、飛行第18戦隊
 が柏から転進して終戦を迎えた。

(4) 終戦に伴い、米軍が接収し、次い
 で東京鉄道教習所松戸分教所として使
 用されていたが、昭和27年7月に保安
 大隊及び施設群 (翌年2月費用へ移駐
 をもって駐屯地を開設した)

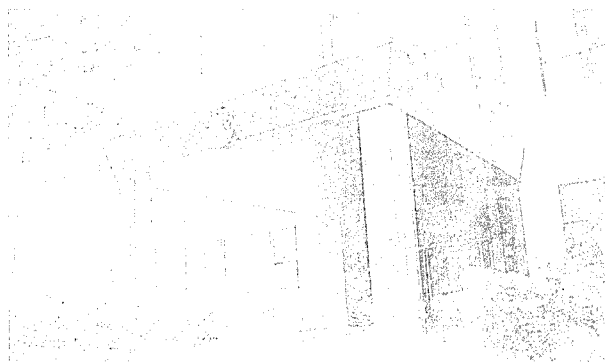
(5) 昭和27年12月に雷品補給所が宇治
 から移駐し、昭和29年1月に雷品学校
 の前身である業務学校第3部が久里浜
 から移駐し、同年9月に雷品学校が新
 編された

(6) その後、昭和42年1月第2高射特
 科群が朝霞から移駐し、平成10年3月
 雷品補給所が廃止されて関東補給所松
 戸支所が新編された。

4 松戸駐屯地の所在部隊等

(1) 松戸駐屯地は、雷品学校、関東補
 給所松戸支所及び第2高射特科群のほ
 か、第30高射直接支援中隊の第3直接
 支援小隊と通信電子整備班、第320基地
 通信中隊松戸派遣隊、業務隊松戸連絡
 班及び情報保全隊からなり、約1千名
 の隊員が勤務している。

(2) 駐屯地の広報活動は、松戸自衛隊
 協力会 (会員 3千5百名)、各部隊
 O B会及び周辺自治会を基盤に、青少
 年・女性層及び地域の有識者を対象と
 して地域との交流の場を拡大するとと
 もに、平素から地域との共生に努めて



雷品学校玄関

いる。

また、部内外機関へのタイムリーな投稿及び上級部隊等の実施する各種行事及び部外行事協力支援等に積極的に参加し、部隊及び隊員の真の姿を紹介して、地域との一体感の醸成に留意している。特に、防衛基盤充実のため、創立記念行事(11月)、盆踊り大会(8月)、イラク帰国報告会等の各種行事への招待、休日の駐屯地施設開放、ちびっ子キャンプ支援、ラグビー部による青少年の指導、各種協力団体の行事支援等を通じて、地域住民との交流拡大に努めている。

(3) 駐屯地開設の初期段階において松戸の名前が広く知られたのは、「女子鼓笛隊」と「ラグビー部」の存在であった。

陸上自衛隊松戸女子鼓笛隊は、昭和33年需品補給所に勤務する女子職員の厚生活動の一環として編成され、61年に休部となるまでの約30年間、全国各地の自衛隊や市町村などのイベントに合計66回派遣され、パレード及びドリル演奏で好評を博した。当初70名で発足したが、需品補給所の定員削減による新人採用激減の影響を受け、内外から惜しまれながら休部せざるを得なかった。

一方、松戸駐屯地ラグビー部は、一般大学で活躍したメンバーが中心となつて昭和28年に創部、関東社会人リーグ戦や全国自衛隊大会で好成績を収めている。現在、松戸駐屯地だけではチームを編成できないので、他の駐屯地と混成チームを編成して全自衛隊大会に出場している。また、社会人リーグ戦には部外者と一緒に混成チームを編成して参加している。

5 需品学校

需品学校は、需品に関する教育・研究の中核機関であり、需品科に必要な知識及び技能の教育訓練を実施するとともに、需品科部隊の教育訓練に関する調査研究を任務とし、併せて駐屯地の支援業務等も担任している。

校風として「若さ」、「誠」、「力」を掲げ、校歌にもこの言葉を盛り込み、周知徹底を図るとともに、実践に努めている。

現在、小測校長は、「第一線のため、共に戦うことを喜びとする」ように要望しており、教育方針として、「新たな態勢を強く意識し、現代戦に適應する教育を着実に実施すること」を求め、特に「総合運用態勢のもと多様な役割に即応する人材の育成」、「職務に忠じた専門的識能の付与」、「戦士としての資質を備えた隊員の育成」を重視している。

(2) 需品、運用、給食、落下傘及び補給管理等の課程・集合教育は、年間18

コ課程等31コース約800名の教育を担当し、学生の4分の3以上が需品科以外の職種から入校という特色があり、航空自衛隊からも毎年5〜7名の空曹をロードマスター要員として受け入れている。

3) 国際平和協力活動や災害派遣における需品科の活動が、このところ非常に脚光を浴びており、カンボジア、モザンビーク、ルワンダ、東チモール、イラクなどの経験者が教育・研究に従事している。最近では「イラク人道復興支援関係」の要員候補者の教育、被服・装具、装備品等の補給・整備などに貢献した。

また、需品学校は、需品科職種の模範的な練度の需品教導隊を有しており、災害派遣・防災訓練では、給水・入浴等の支援で活躍している。

6 関東補給所松戸支所

(1) ここでは、需品の補給・整備・回収等に関して、次の業務を実施している。

・関東補給所として、東部方面隊管内の各部隊を対象とした地区業務

・補給統制本部の統制下で、浄水セツトの整備及び落下傘類の補給整備業務に関する全国の各部隊を対象とした全

国業務

海上・航空自衛隊を対象とした補給整備業務

(2) 関東補給所松戸支所は、主として東部方面隊の各部隊が使用する糧食・被服・燃料・落下傘及びその他の需品(机・イス等)の調達、保管、補給(交付)、整備等を行う機関であり、自衛官のほかに事務官・技官が多数勤務している。

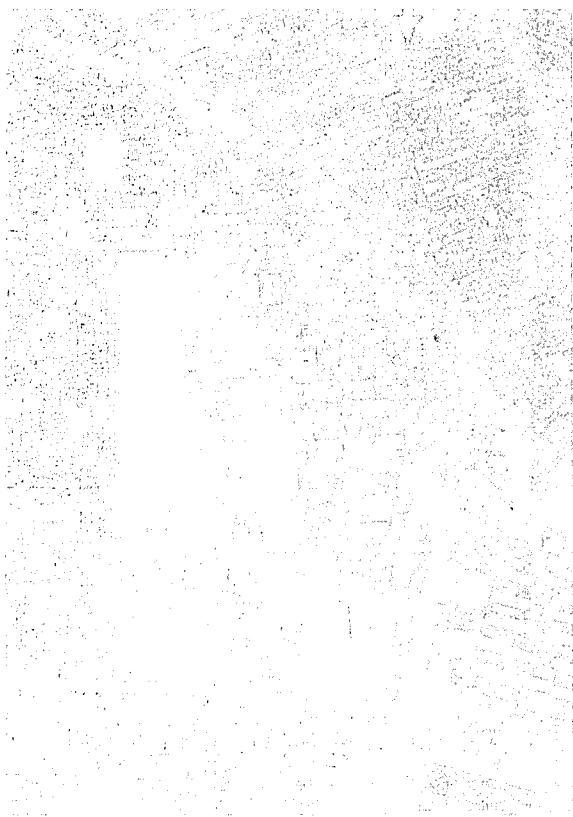
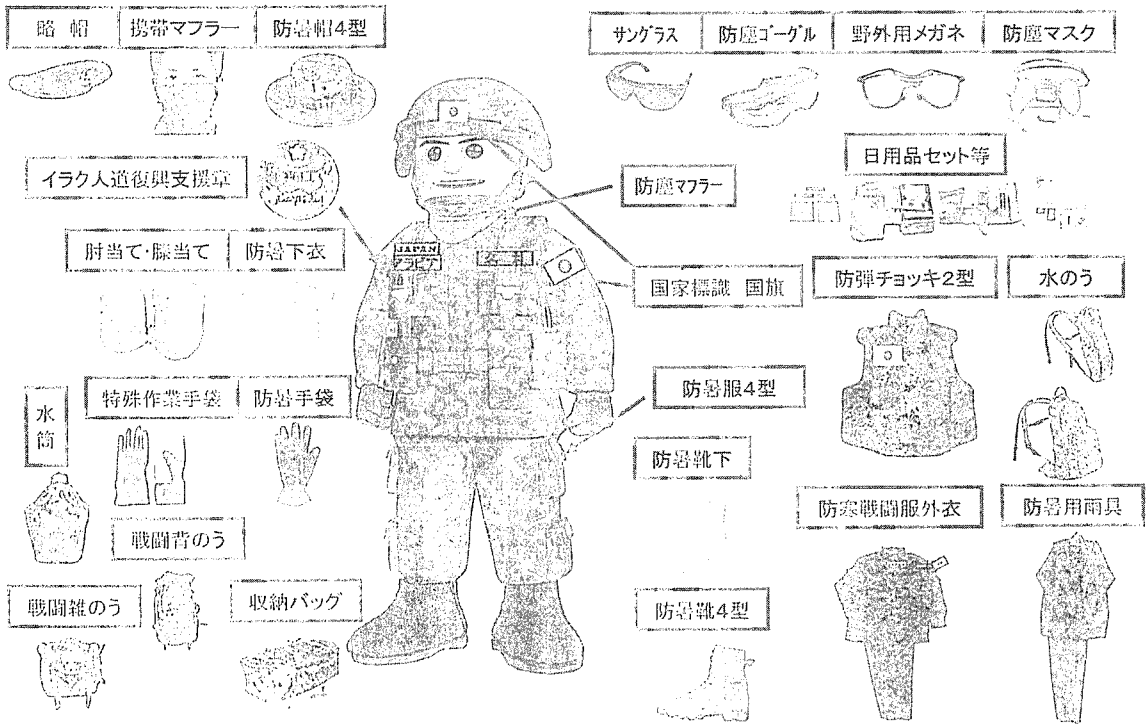
(3) 地区業務は、東部方面隊管内の各部隊等に対して実施しており、また需品科装備品等の工場整備、あるいは駐屯地・基地の厨房機材等について巡回整備を実施している。このほか、陸上自衛隊の特別号文(規格サイズ他)被服等の製作なども実施している。

(4) 全国業務の落下傘関係は、空挺マークを保有する自衛官等が担当し、空挺団の自由落下傘及び空挺傘を整備するほか、陸自航空科職種の航空ヘルメットの整備等を実施している。

また、海上自衛隊には、高速標的機用落下傘を、航空自衛隊には、物料傘、抽出傘、高速標的機用落下傘、低速標的機用落下傘及びセンサー回収傘を支援している。

(5) 国際平和協力活動に関する業務としては、UNDOF支援として毎月1回糧食(耐久性食品及び増加食)を送り、毎月2回糧食及び給水器部品等を追送したほか、業務支援隊要員の被服・装備等の補給・回収、並びに車両用断熱シ-

イラク復興支援群の被服・装具



松戸駐屯地周辺

トの製作を実施した。なお、長官直轄部隊等及び東部方面隊の派遣要員の被服に国家標識、国連記章、イラク人道復興支援章及び氏名札等の縫製を実施した。

7 第2高射特科群
第2高射特科群は、対空誘導弾（改良ホーク）を装備する陸上自衛隊の対空戦闘部隊で、東京周辺（松戸・柏・朝霞・下志津）に高射中隊を分散配置し、航空自衛隊と協同して常時首都地区の対空任務についている。

なお、本年度中には新装備に換装される予定である。

8 駐屯地資料館

昭和35年に開館し、現在、陸軍関係の物品（主に軍服・装具・書類）を約170点、自衛隊の需品科物品（主に被服・装具）を約200点展示している。

所蔵品のうち貴重な資料としては、江戸末期の官軍の軍装及び陣羽織、明治天皇ご着用の手袋、昭和天皇ご使用の手拭、秩父宮殿下ご着用の中服（上・下）、旧軍の「餅の素」などが展示されており、多数の歴史的な文化遺産の収集・保存・管理に努力されていることは心強い限りで今後とも質的・量的に一層充実されるよう期待する次第である。

文責・深山明敏 陸自57